

II. スポーツボランティアとは

1. スポーツボランティアの定義

ボランティアの語源は、ラテン語の voluntas (ヴォランタス)であり、自由意志や自主性を意味している。文部省(現・文部科学省)「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究協力者会議」(2000)では、スポーツボランティアを以下のとおり定義している。

【スポーツボランティアの定義】

地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支えたり、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門的能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のこと

2. スポーツボランティアの政策の中での位置付け

2011年に「スポーツ基本法」が制定され、これに基づき2012年に「スポーツ基本計画」が策定された。現在、我が国のスポーツ政策では、国のスポーツ基本計画を参考に、各都道府県・市区町村で地方スポーツ推進計画を策定し、スポーツ振興が図られることが期待されている。

スポーツ基本計画では、『スポーツボランティア』について言及されている。14か所に記載があるが、主に以下の「第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」で触れられている。今後の具体的な施策として「スポーツボランティア活動の普及促進」を目指しており、主に国は、スポーツボランティア活動に関する国民の関心を高め、地方公共団体は、貢献がある者の功績を称え、地方公共団体やスポーツ団体等は、スポーツボランティアの参画環境を整えることが期待されている。

また、都道府県や市区町村のスポーツ推進計画にも、スポーツボランティアに関する施策が明文化されている例がある。

【スポーツ基本計画(2012):ボランティア関連部分抜粋】

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

2. 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

③ 今後の具体的施策展開:

(スポーツボランティア活動の普及促進)

- 国は、地方公共団体、大学・研究機関、スポーツ団体、民間事業者等と連携を図りつつ、スポーツボランティア活動に関する事例の紹介等の普及・啓発活動を通して、スポーツボランティア活動に対する国民の関心を高める。
- 地方公共団体においては、スポーツボランティアとして大きな貢献がある者を、例えば「スポーツボランティアマスター(仮称)」として認定しその功績を称えること等により、スポーツボランティア活動を奨励することが期待される。
- 地方公共団体やスポーツ団体等においては、地域住民が、日常的に総合型クラブをはじめとした地域スポーツクラブやスポーツ団体等の運営に参画できたり、校区運動会や地域スポーツ大会等のスポーツイベントの運営・実施やスポーツの指導に参画できる環境を整えることが期待される。

3. スポーツボランティアの分類

スポーツボランティアは役割とその範囲から、大きく三つに分類することができる。不定期的な「イベントボランティア」、定期的な「クラブ・団体ボランティア」、トップアスリートやプロスポーツ選手による「アスリートボランティア」である(図表1)。

○イベントボランティア

イベントボランティアは、地域における市民マラソン大会や運動会、更には国民体育大会(国体)や国際大会を支えるボランティアを指しており、不定期的な活動と言える。

イベントボランティアのうち、専門的な知識や技術が必要な「専門ボランティア」としては、審判員や通訳、医療救護員、データ処理、そして大会役員などが挙げられる。

「一般ボランティア」には、特別な技術や知識が不要で、誰にでも容易に関わることができる給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、運搬・運転、そして選手の滞在・訪問を受け入れるホストファミリーなどがある。

市民マラソン大会の例で見ると、受付や給水、コース整理などのほかに、視覚障害者のランナーをサポートする伴走ボランティアランナーといった活動もある。

○クラブ・団体ボランティア

クラブ・団体ボランティアは、地域スポーツクラブやスポーツ団体におけるボランティアを指しており、日常的で定期的な活動と言える。

具体的には、地域のスポーツ少年団やママさんバレーなどで監督やコーチを務める「ボランティア指導者」や、監督やコーチが指導する際の指導アシスタントも含まれる。また、クラブや団体の役員や幹事、練習時に給水などを担当する世話係、更に競技団体役員も「運営ボランティア」に位置付けられる。

○アスリートボランティア

アスリートボランティアは、現役・OB のプロスポーツ選手やトップアスリートによるボランティア活動で、オフシーズンに福祉施設を訪ねたり、ジュニアのスポーツ指導や地域のイベントに参加するなどの社会貢献活動が挙げられる。プロ野球選手やプロサッカー選手の活動はもとより、最近では様々な種目のトップアスリートが集まってNPO法人などを組織し、活動するケースが増えている。東日本大震災の発生以降は、組織、個人に関わらず、多くのアスリートが被災地に出向き、復興支援にボランティアとして携わっている。

図表1 スポーツボランティアの分類

イベントボランティア (地域スポーツ大会、国際・全国スポーツ大会) <非日常的・不定期的活動>
専門ボランティア (審判、通訳、医療救護、大会役員、データ処理など)
一般ボランティア (給水・給食、案内・受付、記録・掲示、交通整理、運搬・運転、ホストファミリーなど)
クラブ・団体ボランティア (クラブ・スポーツ団体) <日常的・定期的活動>
ボランティア指導者 (監督・コーチ、指導アシスタント)
運営ボランティア (クラブ役員・監事、世話係、運搬・運転、広報、データ処理、競技団体役員など)
アスリートボランティア
トップアスリート・プロスポーツ選手 (ジュニアの指導、施設訪問、地域イベントへの参加など)

山口「スポーツ・ボランティアへの招待」(2004)、
 文部科学省「スポーツにおけるボランティア活動の実態等に関する調査研究報告書」(2000)より作成